

## 平成 26 年度学術交流支援資金 報告書

研究課題名：認知・行為・メディアと言語・言語教育

氏名：長谷部葉子

所属：環境情報学部

研究テーマ：アフリカコンゴ民主共和国アカデックス小学校建設・運営プロジェクト  
—建築・教育・看護医療・医学部の 4 領域協働研究の現地化と普及—

### 【エボラ出血熱の感染危険レベル引き上げによる緊急対応】

2014 年度は、8 月 6 日ー9 月 17 日の期間でのフィールドワーク実施予定であったが、アフリカ大陸におけるエボラ出血熱の感染拡大による 8 月 9 日の WHO の感染危険レベル引き上げ発表により、4 学部の総意により、急遽実施期間を 8 月 6 日ー8 月 17 日に短縮することを余儀なくされた。このリスク対応処置により、渡航予定のプロジェクトメンバーのすでに現地入りしていた先発隊メンバー 17 名（プラス建築・看護医療・医学部教員 3 名）のみが短縮機関での渡航を実施し、異例の 1 週間で実施予定内容を短縮バージョンに急遽変更し実施するに至った。また 8 月 21 日出発予定であった、後発隊メンバー（プラス教育領域担当教員 1 名）は渡航を断念するに至った。

当初、建築チームは、前年度に台風レベルの風雨の被害で破損した校舎の修復、および教育チームとの連携でのパン焼き竈づくり（当初の予定より竈の大きさを大幅に縮小）、教育チームは、食育としての蕎麦栽培とパン焼き竈づくり、職業教育カリキュラムとしての電動ミシンを導入した被覆の授業、チョークマシンを導入したチョークづくり・販売授業の集中導入プログラムの実施（蕎麦栽培・食育授業は断念、ストリートチルドレン・女性の自立プログラムは断念、日本 x コンゴ高校生交流スタディツアーの中止、日本文化センターの日本 x コンゴ学術交流セッションの中止）、看護医療・医学部チームは、全校生徒を対象とした健康診断、人間の体の仕組みに関する授業、顕微鏡を用いた衛生教育の授業の実施（健康診断とセットで企画されていた体力測定を目的とした運動会及び家庭訪問、小児科病院及びその併設児童養護施設でのインターンなどは中止）にその研究活動内容が限定された。

画期的な地域的变化としては、小学校の位置するキンボンド地区に初めて水道が引かれ、小学校の敷地内に水道の蛇口が設置された。これにより手洗い、うがい、体育後の足を洗うなどの、衛生教育の実践・普及に大きな進展が見られた。

今回、国立大学医学部訪問、職業訓練校等専門学校などの訪問、現地 NPO 等の訪問は日程短縮により見送られたが、代わりに予定外のコンゴ外務省外務次官訪問が実現した。

今回の渡航期間大幅短縮、及び後発隊の渡航中止を受けて、有事のリスクマネジメントへの意識と対応緊急ネットワークの確立が実現したことは、今後のプロジェクト運営に向けて大きな進展とも言える。今回の経験を受けて、よりコンゴ X 日本人プロジェクトメンバーの両国間の循環型実践研究のシステム、体制づくりが急務であることが認識され、あらたな研究形態の構築と展開への道が開かれた。日本にいながら取り組むコンゴプロジェクト、ディスタントラーニングの実現へ向けての学習環境整備への布石となる 2014 年度であった。また今回は後発隊として渡航予定であった、記録映像担当の映画監督も渡航できなかったため、記録映像は、先発隊の渡航メンバーにより、手持ちのビデオカメラで撮影した映像と写真の画像を日本で映画監督が現地報告を受けて編集制作を行った。

また 2014 年 11 月 21 日、22 日の六本木ミッドタウンでの慶應義塾大学 SFC 研究所主催の Open Research Forum2014 では、2 日間にわたりポスターセッションを行い、また同時開催のニコニコ動画のニコファーレでは、離島口永良部プロジェクトと合同で、2014 年夏の経験を元に「フィールドワーク型実践研究のリスクマネジメントとサステナビリティ」というテーマでトークセッションを実施した。

2014 年度の限定的実践活動の記録画像は以下を参照。







